


着床前診断について

この度当院では、日本産科婦人科学会より、H31年4月11日付けにて着床前診断実施施設の認定を受けました。

着床前診断とは

着床前診断の種類	対象・目的	例
PGT-SR (着床前染色体構造異常診断)	ご夫婦の染色体の構造の異常をみる検査 繰り返し起こる流産に対して行う	染色体転座による反復流産 (または習慣流産)
PGT-M (着床前単一遺伝子診断)	ご夫婦のどちらかが持つ特定の遺伝子の変異で起こる病気 に対して行う検査 医学的に重い遺伝性の病気が子供に伝わる可能性がある	筋強直性ジストロフィー 副腎白質ジストロフィーなど
PGT-A (着床前染色体異数性診断)	受精卵の染色体の数の変化をみる	日本では臨床研究中

出生前診断と着床前診断の違い

出生前診断 (妊娠後)	絨毛検査	妊娠10週前後に胎盤の一部の細胞をとって検査
	羊水検査	妊娠16週前後に羊水をとって検査(確定診断)
	NIPT (新型出生前診断)	妊娠10週～採血して検査 妊婦さんの血液中に含まれる赤ちゃんのDNA断片を分析 (主に21、18、13トリソミーを診断)
着床前診断 (妊娠前)	体外で受精させた胚の一部をとって検査 	培養し始めてから5日目または6日目になると図のような胚盤胞と呼ばれる段階まで育ってきます。 この胚盤胞の外側の細胞の一部をとって検査します。

着床前診断の流れ

- 1、当院にて、一般検査と遺伝カウンセリング、染色体や遺伝子の変化の確認検査(採血など)を行います
- 2、セカンドオピニオンとして第三者機関にて遺伝カウンセリングを行います
- 3、着床前診断の希望の再確認、各種審査、日本産科婦人科学会で審査が始まります
- 4、審査承認後、当院倫理委員会にて審議し、実施されます
- 5、採取した細胞を遺伝学的検査に提出し、正常胚と判断された場合、胚を移植します

着床前診断にご興味のある方はいつでもお問合せください。